

<資料編> 大島土砂災害の概要

第1章 大島の概要

1 地勢

東京の南方海上約 110km に位置し、東西約 9 km、南北約 15km、周囲約 52km、面積約 91.06 km² で、伊豆諸島の中で最も大きな島である。

島の中央には外輪山で囲まれた 10km² ほどの砂漠といわれる火口原（カルデラ）があり、この中に三原山がある。

地質は主に玄武岩で形成されているが、たび重なる噴火により溶岩流や噴出物が随所に露出している。

島の東側は断がい絶壁となって海に落ち込み、西側はこう配がゆるやかで平地が開けている。中央火口原を除き全島森林に覆われており、島内 6 つの集落は海岸沿いに点在している。



(「東京都大島支庁管内概要 (平成 25 年版)」より)

2 気候

海洋の影響を強く受け気温の較差が小さく、黒潮の流れのため温暖多湿な海洋性気候となっている。冬の季節風と春先の低気圧は風を、台風は多雨をもたらす。

3 人口

現在の人口は8,365人(平成25年9月末)であるが、昭和27年には13,000人を数えた。その後、昭和40年代に入り起こった離島ブームによる観光の活発化や、オイルショック等によるUターン現象で、再び上昇傾向になったが、不況による観光の停滞などで昭和50年頃からは微減を続けている。

4 交通機関

(1) 航路

大島への交通機関としては、船舶と航空機とがあるが、経済性、輸送力の面から海上交通が主たるものとなっている。

定期航路として、大島へは、東海汽船株式会社が東京・久里浜・熱海から運航しており、所要時間はジェットフォイルで東京から約1時間45分、久里浜から約1時間、熱海から約45分である。

また、冬季における定期航路の安全性及び夏季における輸送力確保のため大型貨客船も就航している。

(2) 空路

空路としては島に都営空港があり、大島においては、全日本空輸株式会社(ANA)により1日1便が定期就航している。また、新中央航空株式会社の小型機が調布～大島間に1日3便が定期就航している。

空路の所要時間は東京～大島間約40分、調布～大島間約30分である。

島しょ間空路として東邦航空株式会社の東京愛らんどシャトル(9人乗りヘリコプター)が毎日青ヶ島～八丈島～御蔵島～三宅島～利島～大島間を結んでいる。

(3) 島内交通

陸上交通機関は、大島で各集落間と三原山山頂までの定期バスが運行され、さらに定期観光バス、貸切バス、タクシー等が営業している。

その他の交通手段としては、レンタカー、レンタサイクル等がある。

大島の位置図



(「東京都大島支庁管内概要 (平成 25 年版)」より)